

小さな学校の「強み」を土台に、自然に恵まれた学習環境を生かした体験活動と読書活動をつなぎ、「豊かな感性」と「深い思考力」を育成する学校運営を目指して

函南町立桑村小学校 校長 渡邊 衛

1 研究目的

児童が活躍するであろう未来の社会においては、AI技術がますます進展し、大きな社会の変化が訪れることが予想される。そこで生活すべく児童は、これまでの知識の習得はもちろんのこと、様々な問題に対して自ら立ち向かい、深く考え、他者と協働して解決していくことが求められる。また、そのためには人としての「豊かな感性」や「深い思考力」を発揮し、自らの考えを形成したり、新しいアイデアを創造したりすることが必要となってくる。

本校は、全校児童数が80名の規模の小さな学校である。周りは、畑や木々に囲まれ、これまでこうした自然に恵まれた学習環境を生かした豊かな体験活動が展開されてきた。しかし、この体験活動が児童の「豊かな感性」と「深い思考力」の育成にまで達していなかった状況にあった。そこで、本校の強みである豊かな自然環境を生かした体験活動とあらたに読書活動をつなぎ、「小さな学校」の強みを土台として、これからの社会に生きる児童が必要とされる「豊かな感性」と「深い思考力」を育成する学校運営の在り方を児童の学びの姿から検証することにした。

2 研究方法

(1) 桑村小学校の児童の実態把握について、以下の内容を実施

学校評価とSWOT分析、児童自身による読書活動に関する意識調査を実施。

(2) 校内研修を柱に、以下の内容を実施

学校長の講話を通し、不断の授業改善とともに読書活動を柱に体験活動とつなぐことで「豊かな感性」と「深い思考力」を高めることの必要性を共有する。

(3) 読書活動の推進を柱に、以下の内容を実施

ア 児童と教職員がいかにして読書活動を推進していくのかをともに考えることにより、協働で読書活動を推進する。

イ 図書の魅力と読書活動のもつ効果を読書通信『読書活動への扉を開いて』の刊行により、保護者や地域住民とつなぎ、学校とともに推進する体制づくりを整備する。

(4) 自然環境に恵まれた体験活動の実践とその振り返り、そして、読書活動との連携を柱に、以下の内容を実施

体験活動と読書活動をつなぐことで、目指すべく資質・能力とした「豊かな感性」と「深い思考力」を相互作用的に高めていく。

3 研究経過

(1) 学校評価と児童による読書活動の意識調査、SWOT分析による桑村小学校児童の実態把握と育成すべき資質・能力の設定について

令和4年4月に、児童自身による読書活動に関する意識調査と全職員による教育活動に関するSWOT分析を実施した。SWOT分析の考察からは、「本校の児童は、語彙が少ないため自分の思いや考えを友達に伝えることが難しい」とあるとか「本校の強みである豊かな体験活動が、言語力が乏しいため感性や思考力の育成につながっていないのではないか」等の意見が挙げられた。そこで、令和4年度の育成すべき本校児童の資質・能力に「豊かな感性」と「深い思考力」を追加し、不断の授業改善の推進とともに体験活動と読書活動をつないだ教育活動を開発、推進していくことで資質・能力の育成を目指すことにした。

(2) 「主体的・対話的で深い学び」の授業改善と思考力の育成について

学校長は、4月の校内研修において、『主体的・対話的で深い学び』を柱とする桑村小学校の授業づくりをテーマに講話を行った。その中で、「深い学び」の形成には、「言語」のもつ意味とその働きが大切であり、自分の考えを自分の言葉で表現することの重要性を職員とともに考え、共有した。

研修に参加した職員からは、「子供は、自分の言葉で考えがまとめられないから、意味理解までたどり着けないのである。『深い学び』を形成していくためには、豊かな言語力が必要になる。そこが確立されれば、話し合い活動から深く考えることにつながると思う。」であるとか、「本校の『強み』は、自然に恵まれた学習環境にある。そうした『強み』を活用し、豊かな感性を育て

いくには、言葉を大切にしたり振り返りが大切である。」等の意見が出された。そこで、本校児童の課題である言語力を育み、「豊かな感性」と「深い思考力」を育成するためにはどうしたらよいのかを協議し、これまでの体験活動と読書活動をつなぎ、それらを言語力の育成と関連づけて、相互作用的に充実・発展させていくことを共有した。

(3) 図書の魅力と読書活動の効果を大切にしたい協働的な取組について

ア 読書活動推進リーダーの任命と児童と教職員の協働による読書活動の推進

今年度、全校に読書活動を広げるにあたり、「読書活動推進リーダー」を第6学年児童から選出し、教職員とともに活動することを働きかけたところ、5月に3名、6月に4名の児童が手を挙げた。ここから、「小さな学校」の強みが発揮されていく。読書好きな児童が、自分の得意分野を思いきり発揮できる環境を設定することができるのは「小さな学校」の強みといえるのではない。教職員と児童が協働で教育活動を推進していくことは、持続可能な社会の創り手となる児童の資質・能力を育成するうえでも大きな成果が期待される。今回、読書活動推進リーダーが、自分たちの学校を教職員とともに、自分たち自身の力によってよりよいものにしていこうとする姿が見られたことは大きな成果である。

イ 読書通信『読書活動への扉を開く』を刊行し、図書の魅力と読書活動の効果を教職員、児童、保護者、そして地域住民と共有し、協働で読書活動を推進

毎月発行している学校便りに加え、読書通信『読書活動への扉を開く』をあらたに刊行し、読書活動の効果を学校と家庭、地域社会とで共有することにした。この読書通信は、保護者や地域住民とともに児童の読書活動を推進していくことをねらい双方向的な関係を築くことのできる様式のものを採用した。この方策も「小さな学校」の強みを働かせたものといえる。学校からの便りは、学校から家庭への一方向的なスタイルのものが通常であろう。しかし、今回、学校と家庭、地域社会とを読書活動でつなぎ、本校児童の「豊かな感性」と「深い思考力」を育成するには、これまでの方法では自分のこととして十分に捉えられないのではないかと考え、双方向的なスタイルの読書通信を工夫した。

(4) 体験活動の学びの振り返りと読書活動をつないだ「豊かな感性」と「深い思考力」の育成について

本校では、学校運営協議会（コミュニティ・スクール）委員をはじめとする地域住民の応援により、豊かな自然の恵みを受けた教育活動が実践されている。これらの体験活動は、本校の「強み」である。この「強み」を生かした学びから「豊かな感性」や「深い思考力」を育成するには、学びから得たものを自分の表現方法で表出することが大切であることが児童の学びの姿から検証することができた。

4 研究成果(課題等)

(1) 本校の強みである豊かな自然環境の中で感性は磨かれる。そして、それは、読書の世界においても想像力を働かせ、言語力を働かせることで豊かに広げることが可能である。また、思考力においても、普段の授業において自分を深く見つめる学びの中から培うことができ、読書の世界からも自分を見つめ直し、創造力を発揮する思考力を深めることができる。持続可能な社会の創り手となる児童には、「豊かな感性」と「深い思考力」の両方の力が必要となる。

今回、これまで別々に育成してきた「豊かな感性」と「深い思考力」を、体験活動と読書活動とをつなぐことで、相互作用的に育成することの大切さを教職員、児童、保護者、地域住民とで共有し、協働で育成することができたことは大きな成果である。これらの資質・能力の育成は、未来に生きる児童にとってとても重要なことで、継続して取り組むことにより本校の「学校文化」にまで高めていきたい。

(2) 児童より読書活動推進リーダーを選出し、教職員とともに学校運営に参画できる体制づくりを構築できたことは、児童自身が自己肯定感や自己有用感を高めるとともに、学校に対して強い誇りを抱くようになったことに大きな意味をもつ。

今回、児童の可能性を信じ、学校運営に教職員と協働で取り組む読書活動を推進した取組は、自分ごととして学び新しい時代を切り開いていく児童にとって大きな経験となったことを確信する。今回、小規模校である本校の「強み」を生かした児童参画型の学校運営の実践は、学校教育の主役である児童の学びを中心とする持続可能な新しいスタイルを構築することができたことに大きな成果がある。

(3) 学校と家庭との双方向的なやり取りができるスタイルをとった読書通信『読書活動への扉を開く』は、図書の魅力と読書活動の効果を教職員、児童、保護者、地域住民が共有する上で効果があった。また、このシステムを導入したことにより、保護者の学校と協働で取り組もうとする参画意識を高め、読書活動を共に推進していく実践へと発展することができたことに大きな成果がある。